

ボランティア現地報告（石巻）

第 15 班 成田卓矢（宮崎支部）、田中孝明（日南支部）

5/8(日)~5/12(木)までの活動内容と現地の状況を報告します。

* 5/8(日)

東京の J A L シティ四谷に到着、18:00 から日薬会議室にて活動打ち合わせを行う。
その後、19:00 から九州山口のメンバー(11名)で意見交換会を行う。

* 5/9(月)

6:00 からレンタカー3台(車種はアイシス)にて J A L シティ四谷を出発。組み分けは石巻、
気仙沼、南三陸の3チームに分かれて乗車した。途中 S A にて休憩や給油をとりながら東
北自動車道を走行。(給油は仙台宮城 I C 前の菅生 P A、国見 S A にて行う事が可能)
昼食をとり、12:00 に宮城県薬剤師会に到着。宮城県薬剤師会にてボランティア活動につ
いての説明を受け、14 班のチームと引き継ぎを行う。(16 班以降は現地にて直接引き継ぎ
を行う事になる)

13:00 に宮城県薬剤師会から石巻に向けて出発。(北部を通るルートを使用、三陸道を通り
石巻に到着)

15:00 にバイタルネット石巻支店に到着。(車のナビでは違う地点に誘導され、少し迷って
しまった。バイタルネットは国道 45 号線沿いの仙石病院の近くにある)

バイタルネットにて現地の状況、活動内容を確認。活動拠点である石巻薬剤師会仮事務所
に向かう前に時間があったので、稲井小学校に O T C (ポポン S) を配達した。

18:30 より石巻薬剤師会仮事務所にて夕方のミーティング開始。石巻では女川総合体育館、
湊小学校、ヤンマー、渡波小学校、遊学館(以上は避難場所)、女川町立病院、O T C 班に
分かれて活動する事になるが、この時に女川総合体育館で活動することを確認した。

宮城県薬剤師会の副会長である丹野先生が石巻での活動を統括していた。

石巻では各地からのボランティア派遣薬剤師以外に、本部機能を担当するために大日本住
友製薬会社の薬剤師が派遣されている。

夕方のミーティングでその日の活動内容の報告、入れ替わるチーム同士の引き継ぎ、翌日
のスケジュールについての確認などを行った。

その後、各自夕食をとり、他の派遣薬剤師と情報交換などを行い、就寝した。

☆ 石巻薬剤師会仮事務所としてワンフロアマンションを借りて活動を行っている。水と電
気は問題ないが、ボイラー施設が津波により被害を受けているので、シャワーの給湯は
できない。石巻ではコンビニや飲食店も営業しているので、食糧を現地で調達すること
も可能である。布団などは用意されていないので、就寝には寝袋が必要である。女性は
8 畳の部屋で眠り、男性はリビング、キッチンなどに各自場所を確保して眠った。

*5/10(火)

起床時間は決まっておらず、それぞれの薬剤師が各自の判断で起床時間を決めている。女川に向かうチームは活動開始時間が早いので、6時前には起床した。本来なら6:45から早朝ミーティングが行われるが、前日からの雨の影響で女川への道路が冠水している可能性があるとの情報を得ていたので、6:40に出発した。実際に、途中2カ所が冠水していた。途中で女川町立病院のチームを送り届けて、7:15に女川総合体育館に到着した。(女川の被害状況は私たちの想像をはるかに超えていた。女川町立病院は15m以上の高台に建っていたが、その1階部分が壊滅していた。20m近い津波が襲ってきた凄まじさというのは壊滅した状況を実際に目にしないと信じられないだろう)

女川総合体育館に到着したら、女川のボランティアの本部や、体育館の管理者である保健師の佐藤由利さんなどに挨拶を行った。

女川総合体育館の避難者数は740名で、電気や水は問題なかった。衛生面は問題なかったが、埃っぽい個所もあった。

女川総合体育館での基本的な活動は、救護所での調剤・服薬指導、避難者へのOTC薬の聞き取りと配薬、お薬相談の実施などである。

女川総合体育館の救護所では2名のDrと1名の看護師が配置され、応援で歯科や耳鼻科のDrが配置されることもあった。(ちなみに救護所のDrも被災者で、今も車で寝ているという事であった)

8:30から12:00までは午前中の診療が行われた。基本的に定期薬や、上気道炎の処方がメインであった。女川はまだ瓦礫の撤去がすすんでいないので、道路で釘を踏んだ方や、自宅の瓦礫を除去している際にケガをした方などもいた。だが、患者数は18名と少なかったため、1名は救護所で待機して、もう1名は避難所を回ってOTC薬の聞き取りと配薬を行った。

12:00からは昼食の時間となる。今回は管理者の佐藤さんから被災者に配給されている食事を御厚意により私たちにもわけていただいた。

13:00から15:00まで保健師1名、薬剤師1名で健康・お薬相談を行った。保健師が血圧を測り、もし薬の相談があれば薬剤師が対応するという形で行った。(健康が気になるという方より、誰かと話がしたいという方が多かったように感じた。同じ生活をしている人達よりも、ボランティアで他県から来た人の方がいろいろと話しやすい部分もあったのかもしれないと感じた)

お薬相談をしない薬剤師は、14:00から午後の診療に備えて救護所で待機した。定期の患者さんは午前中に来るので、午後の患者さんは臨時処方の方がメインで、14:00から16:00の診療時間で患者数が3名と少なかった。

午後の診療が終わると、後片付けをした後に、16:30に帰路についた。

薬の補充は、医療用医薬品は女川町立病院に連絡して調達した。OTC薬についてはバイトルネットで発注を行い、当日の夕方ミーティングで受け取る形で対応した。

石巻薬剤師会仮事務所に到着した後、19：00の夕方ミーティングまで各自その日の活動の整理、食事などを行った。

19：00からの夕方ミーティングで活動内容、次のチームへの引き継ぎ、翌日のスケジュールなどを確認した。ミーティング後は、他の派遣薬剤師と情報交換などを行い、就寝した。

*5/11(水)

6：00に起床、6：45からの早朝ミーティングにて各自のスケジュールを確認し、7：00に女川に向けて出発した。(昨日冠水した場所は、自衛隊により補修作業が行われていた)

7：50に女川総合体育館に到着してから、昨日不足して渡す事が出来なかったOTC(主にシップ薬など)を配薬し、8：30から調剤業務を開始した。

スケジュールは昨日同様、8：30～12：00午前中診療(患者数11名)、午後からは13：00～15：00のお薬・健康相談、14：00～16：00の午後診療(患者数7名)に分かれて活動を行った。

16：30から石巻薬剤師会仮事務所に向かって出発し、到着後は18：00の夕方ミーティングまで各自その日の活動の整理、食事などを行った。

夕方ミーティングで活動内容、問題点の提起、次のチームへの引き継ぎ、翌日のスケジュールなどを確認した。私たちは福井県のチームと引き継ぎを行った。話し合いの結果、現地で説明しながら引き継ぎをした方がいいだろうという事に決まった。

ミーティング後は、他の派遣薬剤師と情報交換などを行い、就寝した。

*5/12(木)

6：00に起床、6：45からの早朝ミーティングにて各自のスケジュールを確認し、7：10に福井県のチームと共に女川に向けて出発した。(この道を通るのもこれが最後になるかもしれないと思うと感慨深いものがありました)

7：50に女川総合体育館に到着後、福井県のチームに引き継ぎを行った。引き継ぎが無事終了したら、バイタルネット石巻支店に向かった。バイタルネット石巻支店に10：00に到着後、石巻中央公民館にOTC薬を配達した。石巻中央公民館で不要となった医薬品も回収したが、回収したのはOTC薬のみで、医療用医薬品についてはまた別のチームが行うことになる予定であった。

石巻での活動を終了後、11：00にバイタルネット石巻支店を出発した。

12：30に宮城県薬剤師会に到着。本部派遣として宮城県薬剤師会で活動していた藤野先生と合流し、13：00に日本薬剤師会に向けて出発した。

途中のPA、SAで食事、休憩などを行いながら17：40に日本薬剤師会に到着。その後、それぞれの宿泊先へと向かうために解散した。

以上が5/8(日)～5/12(木)までの活動内容と現地の状況報告です。

ここからは現地で感じた事を述べたいと思います。

石巻の活動拠点である石巻薬剤師会仮事務所は、予想していたより快適な環境でした。シャワーの給湯が出来ない事が改善されればもっと過ごしやすくなるかもしれませんが、事務所から車で45分ほどの場所に温泉施設があるので、どうしてもお風呂に入りたい場合にはそこを利用する事も可能です。食事は近くに店が開いていますし、コンビニも営業しているので、問題ないと思います。飲料水も現地で調達できます。私たちは昼食を避難所で用意していただきました。しかし、ボランティアは自己完結という原則を守るためにも、ボランティアの薬剤師は食事を現地ででもらえるものという考えはもたずに、自分の食糧は自分で用意して現地に入っていたきたいと思います。(実際私たちも自分の食糧は自分で持っていき、最初は断りましたが、結局御厚意に甘えさせていただいた形になりました)東北は全く初めての土地だったので、寒くないだろうかという不安もありましたが、思ったよりも寒くなかったです。5月上旬という時期も良かったのかもしれませんが、眠るときも、寝袋で寒さを感じる事もなく眠る事ができました。

女川の被害状況は実際に目にしないとそのひどさ、すさまじさはわからないと思います。瓦礫の撤去もまだ完了しておらず、ビルに車が突き刺さっている光景、船が陸地の奥まで流されている光景は未だに信じられません。この光景をみたら復興という言葉は簡単には使えません。もし瓦礫を撤去できたとしても、この土地に住人が戻ってくるのかと考えてしまいます。私なら、例え故郷でも去ってしまうかもしれません。

避難されている方は今のところ健康状態は落ち着いていますが、体育館は冷蔵庫や冷房施設が完備されているわけではないので、梅雨の時期の食中毒、夏になってからの熱中症などが心配です。現在仮設住宅が急ピッチで建設されていますが、早く全世帯分が完成して欲しいと思います。

今はボランティア活動が避難者の自立を支援する形にシフトしています。女川町立病院の保険診療が開始する事に伴い、女川総合体育館の救護所も閉鎖される予定です。保険診療やドラッグストアが再開する事により、今のボランティア活動は地域の自立を妨げる可能性がでてくるので、活動が制限されていきます。これからの活動は過剰な医薬品を回収し、仕分けしていくという作業になっていくと思います。

女川に向かう道は、途中まではそれほど被害を感じない場所もあるのですが、女川に到着したら景色が一変します。私たちは震災後2カ月経っていたので、まだ良くなっていると聞きましたが、それでも想像を超えていました。その女川へ向かう道の途中で、きれいな花が植えられている場所がありました。そこには『すべては未来のために』という言葉が書いてありました。この言葉は女川に向かったメンバー全員の胸に残っています。

薬剤師がどこまでできるかわかりませんが、些細な事でも未来へと向かって何かはできると思うので、支援の手を緩めず薬剤師全体としても個人としても活動が続けていく必要があると思います。